留学に影響

新型コロナ

授業開始日を繰り下げ
オンライン活用し3密回避

新型コロナウイルス対策のために開かれた「総合安全会議」では、まず1月から2月にかけて実施する本学の海外語学留学と交換留学、短期留学の派遣について、外務省などの危険情報に基づき方針を定め、派遣と受入の中止を決定した。また、海外渡航を予定している教職員および学生に対し、無理な渡航を控えるよう呼びかけた。

在学留学生に対しては、全学生の動静確認を行い、一時帰国者には自国待機を通知するなど、渡航を通じた感染を防ぐよう注意を促した。

課外活動自粛 移動も制限

学内で実施する各種イベントも次々と中止・延期を決定した。本学の最大の学事である卒業式と入学式についても、列席者の制限や式典時間の短縮など開催方法を多方面から検討したが、安全面の課題を解消するに至らず、やむなく中止した。

学生の課外活動については、全クラブに対し遠征や合宿の自粛を要請したほか、緊急事態宣言前後には、地元・実家へ帰省中の学生や公共交通機関を利用する学生の活動を禁止させるなど、刻々と変わる感染状況や国内情勢に対応した。

ガイダンス 4月20日から

感染拡大の状況から春期授業開始の繰り下げを決定した本学は、ホームページなどを通じて通知するとともに、授業開始に向けて準備を進めた。

授業は当面の間、manabaを活用したオンラインで実施することとし、キャンパスの入構制限解除に向け、各施設において「密閉・密集・密接」を避けるための各種対策を講じ、感染防止を図る。

また、毎年4月に全新入生が受講する防災基礎教育は、動画やスライド、小テストによるオンデマンド授業としたほか、学長講話は実施方法を検討する。

この間も、在学生および教職員に対し、ホームページやmanaba（講義支援システム）を通じ注意喚起を継続して行った。

このほか、政府や東京都の外出自粛要請を受け、本法人は教職員に対し、勤務免除や在宅勤務を命じるなど、法人としての社会的使命と責任を果たすため、感染拡大防止に努めた。

東京マラソンにも余波

コース内を巡視するモバイルＡＥＤ隊

救護チームを配置
担当ゾーン 自転車で巡視

3月1日に開催された東京マラソン2020で、本学はモバイルAED隊および沿道救護本部として、救急救命士の資格を持つ体育学部スポーツ医科学科卒業生、防災・救急救助総合研究所教職員を中心に総勢31人をコース各所に配置し、大会運営をサポートした。

2人一組で配置された12隊は、AEDなどの資器材と、昨年本学と東京マラソン財団、中国のファーストレスポンド社が共同開発した救護専用通信機能ヘルメットを装備し、担当救護ゾーン内を自転車で巡視して緊急事態に備えた。

本学は、2007年の第1回大会から大会運営に協力している。今回も協力団体として、沿道救護チーム（モバイルAED隊、BLS隊）、通訳ボランティア（救護所対応）を200人規模で派遣する予定だったが、新型コロナウイルス拡大予防のため一般ランナーの部が中止され、エリートランナーの部のみの開催になったことから、規模を縮小して派遣することとなった。

また、同大会の展示会「東京マラソンEXPO」についても同様の理由で中止となった。

病院前救急医療の指導法学ぶ
エジプト研修団 修了

評価者（右）と救助者に分かれて実習に取り組む研修生

平成28年に日本とエジプト政府が締結した「エジプト・日本教育パートナーシップ」に基づき、同国の救急医療現場に従事する研修生10人が1月13日から8週間、本学多摩キャンパスで病院前救急医療の指導法を学んだ。

研修の講師は本学防災・救急救助総合研究所（防災総研）の教員らが務め、講義内容は通訳者によってアラビア語に訳された。研修生らは母国と日本の救急医療の違いを学びつつ、母国で講師となって最先端の救急医療を指導するために、互いに指摘し合い研修後のフィードバックを重ねた。

「学んだ知識 母国で広める」

3月6日の修了式には、防災総研の島崎修次所長や体育学部の田中秀治教授をはじめ関係者らが列席し、島崎所長から研修生一人一人に修了証が手渡された。

あいさつに立った島崎所長は「本学で学んだことを、エジプトの文化や体制に合わせてアレンジして活用してほしい。新しい体制構築に尽力してください」と呼びかけた。ナイームさんは関係者にそれぞれお礼を述べた後「8週間で学んだことをエジプトで活用したい」と母国での活躍を誓った。

「エジプト・日本教育パートナーシップ」は、同国の教育・保健分野における人材育成の推進を目的に締結されたもので、平成30年に本学の研修プログラムが採択された。契約期間は4年間で、エジプトの救急医療従事者を毎年10人ずつ受け入れている。

研修生10人のリーダーであるナイームさんは、本学での研修について「バランスのとれたスケジュールが組まれ、先生方も素晴らしい」と述べ、「エジプトには日本のような最先端の医療器具はないが、あるものを工夫して傷病者を救助したい。また、国士舘で学んだ内容をエジプトに広めていきたい」と帰国後の活動を見据えた。

産学共同 大きな成果

二井教授らが提出した提案書の一部

培地交換などを自動化する装置の試作機

細胞処理用自動装置開発

沼津市の都市計画デザイン
二井教授が最優秀提案

理工学部まちづくり学系の二井昭佳教授（写真）が協力者として関わった、株式会社エイト日本技術開発、株式会社イー！エー・ユー設計共同体の応募案「ふるさとの風景をつくる『みちにわ』」が2月28日、静岡県沼津市「（都）沼津南一色線設計競技（デザインコンペ）」の最優秀提案に選定された。

このデザインコンペは、沼津市内を走る都市計画道路「沼津南一色線」と、道路予定地内で発見された東日本最大級の古墳保存の両立を図るため、道路と古墳を含む周辺を一体的な空間として整備することを目指し、沼津市が実施した。

二井教授は、同共同体の協力者としてこのデザインコンペに参加し、最優秀提案に決定した。

神野教授 試作機が完成

理工学部機械工学系の神野誠教授（写真）とテルモ株式会社は共同で、細胞を培養する際の培地交換などを自動化する装置の試作機を完成させた。令和3年度中の完成を目指し、今後実用段階での採用が期待されている。

神野教授はロボットによる細胞処理作業の効率化システムに関する研究を進めている。また、同社は近年、再生医療分野の市場拡大を見込み、重症心不全の治療に使う世界初の再生医療製品を製品化するなど、生産技術に注力している。両者は平成28年8月から共同開発をスタートさせた。

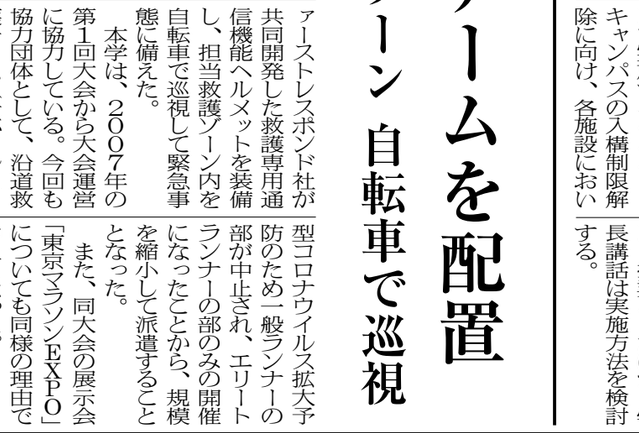
今回開発した装置では、これまでほぼ手作業だった培地交換の処理時間を半分以下に短縮できるようになった。今後再生医療や細胞医薬品の商業化に寄与すると見込まれている。

防災意識高める

文学部教員40人が勉強会
専門分野の視点で研究発表

文学部人文学会は2月26日、世田谷キャンパス34号館B201教室で『地域・社会に貢献する「防災拠点大学」』と題して勉強会を開催し、教員ら約40人が出席した。勉強会では3学科から合わせて9人の教員が登壇した。文学科からは4人の教員が、文学作品での防災の描かれ方を論じたほか、史学地理学科からは文化財の復旧や地域災害誌の理解について、教育学科からは外国人や災害弱者について考察が示されるなど、それぞれの専門分野における「防災」をテーマに研究成果を発表した。参加者らはワークなども交えながら実践的な学びを深めていた。

同学会では一つのテーマについて複数の学問領域から討議することで、研究の連携協力を促進することを目的に、毎年勉強会やシンポジウムを開催している。



ワークに取り組む教員ら

「リーダー養成論」
泊まり込みで実習

本学は2月7日から9日までの3日間、多摩キャンパスで「防災リーダー養成論実習」を開講し、4学部の学生19人が受講した。

授業は、災害時に必要となる知識と技術を習得する実践的な集中実習で、専門家による講義のほか、応急手当・搬送法・災害トリアージ、避難所運営図上訓練、資機材組み立て、避難所間仕切り設置訓練などを幅広く実施した。

2日目の夜は大学内に一泊し、電気や水道をはじめとするライフラインが切断された避難所を想定した実習が行われた。

3日目には震災を想定した総合訓練を実施し、傷病者役と救助者役に分かれて実践形式の訓練に取り組んだ。

傷病者役を搬送する学生ら

《在学生およびご父母の皆さまへ》
新型コロナ まん延防止へ

新型コロナウイルスに関する本学対応の最新情報は、大学ホームページやmanaba（講義支援システム）で確認してください。

自覚と責任ある行動を

新型コロナウイルスのまん延を防ぐため、次のことを意識して行動してください。

◇こまめな手洗いやアルコール消毒、マスクの着用（咳エチケット）に努める
◇感染を防ぐため、3つの条件「換気の悪い密閉空間」「多数が集まる密集場所」「間近で会話や発声をする密接場面」を避ける
◇発熱やのどの痛み、長引く咳、強いだるさ（倦怠感）、嗅覚・味覚の異常などの症状がある場合は、外出を控えて自宅で療養する
◇海外から帰国後2週間は、他者との接触を避け、自宅に待機して健康観察をし、外出を控える

新型コロナウイルスに起因する講義などの欠席については、修学に不利益が生じないよう配慮する。

不安なことや授業などに関する不明点は、お問い合わせください。

●問い合わせ先
○体調に関すること
健康管理室
世田谷キャンパス：03（5451）8115
町田キャンパス：042（736）2319
多摩キャンパス：042（339）7206
○履修・授業に関すること
manabaで、さまざまな質問に対応しています。必ず確認してください。

高大接続へ説明会
高校２年生が参加
学部選択の指針に

本学は2月6日、国士舘高等学校の2年生を対象に、高大接続計画の一環として学部説明会を世田谷キャンパス34号館の各教室で実施した。

生徒らは興味のある学部の教室に分かれ、各学部の教員から説明を受けた。教員は、それぞれの学部・学科の学びの特徴や取得可能な資格などを具体的に示した。生徒らは熱心に耳を傾け、学部選びの参考としていた。

説明会は、大学学部教育の理解促進を図るために昨年から行われているもので、同時期に開催予定だった本学入学予定の3年生を対象とした「国士舘リーダー養成入学前教育」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

受験者、合格者とも増加
令和２年度入学試験

本学は令和2年度入学試験をAO入学試験、推薦選考、一般入学試験（前期入試、デリバリー入試、中期入試、後期入試）、C方式入学試験などに分けて実施した。

前年度より総志願者数は473人増の24988人、受験者数は596人増の24163人、合格者数は331人増の6485人だった。

令和２年度　国士舘大学入試結果（確定数）

単位：人

学部	学科等	志願者	受験者	合格者
政経	政治行政	1,856	1,804	387
	経済	3,584	3,444	806
	計	5,440	5,248	1,193
体育	体育	1,212	1,160	346
	武道	230	226	150
	スポーツ医科	930	919	263
	こどもスポーツ教育	436	425	143
	計	2,808	2,730	902
理工	理工	2,881	2,754	695
	計	2,881	2,754	695
法	法律	2,119	2,070	539
	現代ビジネス法	1,237	1,189	410
	計	3,356	3,259	949
文	教育	1,856	1,805	369
	史学地理	1,883	1,828	574
	文	1,288	1,245	370
	計	5,027	4,878	1,313
21世紀アジア	21世紀アジア	1,697	1,635	671
	計	1,697	1,635	671
経営	経営	3,779	3,659	762
	計	3,779	3,659	762
総計		24,988	24,163	6,485

マスコミを追う

【新聞】
●「五輪、平和再認識する場に」で、体育学部の田原淳子教授のコメントが掲載（北海道新聞3月26日）
●救急隊員による心肺蘇生の不実施について防災・救急救助総合研究所の島崎修次所長の見解が掲載（西日本新聞3月23日）
●中世の出雲大社の遷宮の詳細などを示す大量文書を新たに発見したとして、研究グループの代表である文学部の藤森馨教授のコメントが掲載（中国新聞3月17日）
●東日本大震災の被災地で増加する外国人労働者の労働環境について、文学部の鈴木江理子教授のコメントが掲載（日本経済新聞3月9日）
●人口減少問題について文学部の加藤幸治教授のインタビューが掲載（北海道新聞2月22日）
●体育学部の鈴木桂治准教授の連載コラム「柔のすゝめ」で柔道日本代表で学んだ極意を紹介（産経新聞2月20日）
●鳥取県倉吉市で開催された被災宅地危険度判定士の養成講習会において、理工学部の橋本隆雄教授が判定のポイントを説明したと掲載（日本海新聞2月13日）
●さいたま市で開催された防災フォーラムにおける、防災・救急救助総合研究所の山﨑登教授と防災落語家三遊亭楽氏の対談内容が掲載（埼玉新聞2月13日）
●「オピニオン正論」に政経学部の百地章特任教授が「国民の命より『改憲阻止』が先か」と題し寄稿（産経新聞2月12日）

【テレビ・ラジオ】
●「首都圏ネットワーク」カウントダウン2020で、パラ水泳で活躍する齋藤元希選手（理工学部3年）の特集が放映（NHK2月4日）
●法学部の吉開多一教授が検察指導した木曜ドラマ「ケイジとケンジ」が放送（テレビ朝日1月16日～3月12日）

【卒業生】
●3月に卒業したやり投げの長沼元選手（令和2年体育学部卒）が「スズキ浜松アスリートクラブ」に加入したと掲載（静岡新聞4月2日）
●佐久ケーブルテレビアナウンサーの前島正彦さん（平成8年政経学部卒）のインタビュー記事が掲載（信濃毎日新聞2月18日）
●宮城県大和町で中国料理店を営む千坂亮馬さん（平成11年体育学部卒）のインタビュー記事が掲載（河北新報2月13日）